

(2) 防除適期は？

カメムシ類の被害粒を効果的に抑制できる防除適期を調査した結果、ほ場の半数の莢が2～3 cmに伸長した時期（莢伸長始）から約6日後または16日後となりました。これらは、マメシクイガの防除適期と一致します（表2）。

表2 莢伸長始の6日後と16日後に防除した時の被害粒抑制効果

1回目 散布 ^{※1}	2回目 散布 ^{※1}	2017年						2018年	
		現地Aほ場		現地Bほ場		十勝農試		十勝農試	
		カメムシ	マメシクイガ [※]	カメムシ	マメシクイガ [※]	カメムシ	マメシクイガ [※]	カメムシ	マメシクイガ [※]
シフル	MEP	8.1 ^{※2}	0.0	3.5	0.7	1.7	0.0	0.9	0.3
シフル	PAP	—	—	—	—	9.0	0.0	—	—
A剤	MEP	—	—	—	—	—	—	0.9	4.5
クロラ	シフル	1.6	0.0	6.3	0.0	5.4	2.1	3.6	0.0
クロラ	A剤	10.1	0.0	6.9	0.4	5.0	2.0	4.6	1.7
無処理区の被害粒率 ^{※3}		3.3%	0.2%	13.4%	11.4%	2.2%	5.6%	3.4%	9.4%

※1 1回目散布：莢伸長始6日後、2回目散布：莢伸長始16日後

※2 各処理区の数値は、被害粒率の無処理比(数値が低いほど効果が高いこと示す)。

※3 無処理区の数値は各害虫による被害粒率を示した。

3. 留意点

- (1) 既存のマメシクイガ防除方法に組み入れることにより、大豆子実を加害するカメムシ類とマメシクイガの同時防除に活用できます。
- (2) 本成績は、十勝管内の中粒大粒大豆ほ場ですべての試験を実施しました。
- (3) 2018年末現在、A剤は大豆のマメシクイガに対する農薬登録はありますが、大豆のカメムシ類に対する農薬登録はありません。

(成績名：大豆子実を加害するカメムシ類およびマメシクイガの同時防除方法)

もう少し詳しい情報はこちら
(スマホでの閲覧はお勧めしません)

検索は、「農業技術情報広場、一般課題 H31」で



本技術内容についての問い合わせ先
道総研十勝農業試験場
電話 (0155) 62-2431
E-mail: tokachi-agri@hro.or.jp